

## SAR 干渉画像で検出された地表変動解釈のための判読カード作成

## Production of interpretation card to understand surface deformation detected by synthetic aperture radar interferograms

# 佐藤 浩 [1]; 中埜 貴元 [1]; 宇根 寛 [2]

# Hiroshi, P. Sato[1]; Takayuki Nakano[1]; Hiroshi Une[2]

[1] 国土地理院; [2] 国土交通大学校

[1] GSI; [2] College of Land, Infrastructure, Transport and Tourism

2007年3月25日、能登半島西岸付近の深さ約10kmで能登半島地震(M-6.9)が発生した。宇根ほか(2008)は、合成開口レーダ(synthetic aperture radar: SAR)干渉画像(以下、SAR干渉画像)を用いて、震央近くの能登半島西海岸において、地震に伴って発生した地表変動(以下、単に地表変動)を見出した。そして、防災科学技術研究所が公表している地すべり地形データベースと重ね合わせ、地すべり地形との関連を示唆した。しかし、SAR干渉画像が示す干渉縞の変化だけを見ても、それがより詳しい地形(微地形)とどのように対応するのか解釈することは難しい。そこで、航空レーザ測量データ(北陸電力計測)から作成した等高線図と空中写真を使って地すべり地形分類図を作成し、その地表変動が地すべりの再活動で説明できるとするとSAR干渉画像をどのように判読すればよいのか、その見本となるべきSAR干渉画像判読カードを作成した。その結果について報告する。

## 参考文献

宇根ほか, 2008, SAR干渉画像を用いた能登半島地震及び中越沖地震に伴う地表変動の解析. 日本地すべり学会誌, 45: 125-131.